

2024（令和6）年度 社会福祉法人共働福祉会 事業報告

準拠する「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）」および「児童福祉法」に基づき、年齢層に沿った通所支援事業ならびにグループホーム、ショートステイの入所型事業を行い、日常の生活支援をはじめ就労支援、活動支援などを目的に応じて実施した。以下、項目に沿って報告する。

○経営理念より

掲げている経営理念の中から「共に生きる」を意識して取り組んだ。まずは大きな事故なくそれぞれの事業を実施することができた。一昨年度まで健康面、また事業運営面にも大きな影響を与えていた感染症について数件発生したが、その都度拡大防止の対策を講じることによって影響を最小限にとどめることができた。活動面においては日常を取り戻せたことにより、利用者、家族、関係者、職員が一体となって活動できる場面が増え、ようやく以前のような賑わいを取り戻すことができたと言える。

次に経営方針に沿って年度当初に掲げた目標に沿って振り返ってみる。

（ご利用者と共に）

各事業所が今まで築いてきたカラーを大切にしつつ、新しい活動、新しいご利用者の受け入れを行った。特に利用者の受け入れについては馴染めるだろうか心配する場面もみられたが、ご自身のがんばり、また職員が間に入ってサポートすることによってつながりを深め安心感が増すことにより、安定した利用状況、生き生きとした活動につなげることができた。

（活気ある職場）

年間を通じて3名の正規雇用職員を採用することができた。新規雇用が大変むずかしい状況の中、利用者増など必要な時に必要な人材を獲得できたこと、また入職者が辞めることなく継続して勤務できていることは、既存の職員とお互いに高め合いながら取り組めた結果であると言える。当法人は若手の職員が多く所属しており、正規雇用職員の内、20歳代が約40%を占めている。新卒採用から5年以下の職員が競い合い、自身の得意分野を発掘しながら専門性の向上に努めていることが日々感じられる。

（未来志向の経営）

念願であった福山共働センターの新築工事を無事に終えることができた。2月14日に竣工。そして2月21日に関係者を招き、計160名で落成のお祝いをすることができた。こちらの完成によってご利用者の新規受け入れはもちろん、福山共働センターの新しい形づくりをスタートさせることができる。

グループホーム事業では、当法人が運営するホームは1棟だけであり満室の状況である。年度の半ばあたりから通所事業利用者の家庭環境の変化によって入居を希望される件が複数発生した。これらはグループホーム事業の拡大を切望する声であり、今後取り組むべき課題の上位にあげられる。

（地域と共に）

新型コロナ禍以降、地域から頼られ、各種行事の参加依頼など声をかけられる場面が増えてきた。また幼児期をはじめ、学齢期から高齢期まで年齢層を問わず交流が再びできていることが強みと言える。それぞれの事業所の立地や周囲の社会資源に併せてこれからも各機関と関係を強めていく。また地域の課題を把握し、それらに可能な限り対応していくとともに、実際に出向いて課題の表出にも取り組んでい

く。

以上が令和6年度の振り返りである。
次に法人全体かつ各拠点区分における事業報告を挙げる。

1. 法人が行う事業

(1) 事業種別

第二種社会福祉事業

障害福祉サービス事業の経営

障害児通所支援事業の経営

特定相談支援事業の経営

障害児相談支援事業の経営

(2) 種類及び名称

生活介護	久松共働センター
就労継続支援 B 型	久松共働センター
放課後等デイサービス	サニーふれいす
児童発達支援	サニーふれいす
特定相談支援事業	久松共働センター
障害児相談支援事業	久松共働センター
生活介護	福山共働センター
就労継続支援 B 型	福山共働センター
共同生活援助事業(グループホーム)	宇宙(そら)ホームきぼう ホームみらい
短期入所事業	宇宙(そら)短期入所

(3) 管理者名

久松共働センター	占部 幸一
久松共働センター (相談)	松山 健
サニーふれいす	小林 晃子
福山共働センター	小池 政代
宇宙	松山 健

(4) 所在地

法人本部	福山市久松台3丁目1番39号
久松共働センター	福山市久松台3丁目1番39号
サニーふれいす	福山市久松台3丁目1番39号
福山共働センター	福山市御幸町大字上岩成字稲月731番地
宇宙	福山市久松台3丁目12番13号

(5) 定員

久松共働センター	
生活介護事業	20人
就労継続支援 B 型事業	20人
サニーふれいす	
放課後等デイサービス・児童発達支援	10人
福山共働センター	
生活介護事業	10人
就労継続支援 B 型事業	20人
宇宙	

共同生活援助事業
短期入所

8人(4人×2ユニット)
2人

2. 役員等の状況 (令和7年3月31日現在)

理事長 松山 健
理事 平岡 浩
理事 鈴木 光
理事 占部 幸一
理事 渡邊 哲博
理事 角川 克己

監事 江草 克己
監事 井原 俊博

評議員 野村 守
評議員 品川 裕見子
評議員 広川 昌彦
評議員 丸尾 富美子
評議員 高橋 宏治
評議員 三島 麗子
評議員 藤原 大輔

3. 法人運営の状況

(1) 理事会の開催

第1回理事会 令和6年5月8日(水) 18:30 ~ 19:15

- 議案1. 理事の推薦について
- 議案2. 福山共働センター移転新築工事に伴う資金計画等について
- 議案3. 評議員会の開催について
- 議案4. その他

(報告事項)

- 1. 福山共働センター移転新築 進捗状況について

第2回理事会 令和6年6月5日(水) 18:30 ~ 20:10

- 議案1. 令和5年度 事業報告について
- 議案2. 令和5年度 決算報告について
- 議案3. 監事監査報告について
- 議案4. 社会福祉充実残額について
- 議案5. 評議員会の招集と議案について
- 議案6. 福山共働センター移転新築 進捗状況について
- 議案7. その他

第3回理事会 令和6年7月6日(土) 17:30 ~ 18:30

- 議案1. 福山共働センター移転新築工事に係る
設計業者の選定について(報告)
- 議案2. 福山共働センター移転新築工事に係る入札ならびに
落札方法について
- 議案3. 福山共働センター移転新築工事に係る
入札予定価格・最低制限価格の設定について
- 議案4. 福山共働センター移転新築工事に係る入札業者の選定について
- 議案5. 福山共働センター移転新築工事

建設業者決定までのスケジュールについて

議案 6. 福祉・介護職員等処遇改善加算の支給に関する規程の変更について

議案 7. その他

第4回理事会 令和6年11月28日(木) 18:30 ~ 20:05

議案 1. 令和6年度上半期収支について

議案 2. 令和6年度第一次補正予算について

議案 3. 所轄庁実地指導について

議案 4. 福山共働センター 移転新築 進捗状況について

議案 5. 業務管理体制について

議案 6. 評議員会の開催について

議案 7. その他

(報告事項)

1. 理事長の業務執行状況の報告

2. その他

第5回理事会 令和7年3月19日(水) 18:30 ~ 20:00

議案 1. 令和6年度 第2次補正予算(案)について

議案 2. 令和7年度 事業計画(案)について

議案 3. 令和7年度 資金収支予算(案)について

議案 4. 定款変更について

議案 5. 常用職員就業規程の追加変更について

議案 6. 有期職員就業規程の追加変更について

議案 7. マネジメントリスクプロテクション保険の継続加入について

議案 8. 評議員会の開催について

議案 9. その他

(報告事項)

1. 福山市障がい福祉分野におけるICT導入モデル事業
補助金交付の決定について

2. 福山共働センター 新館落成について

3. その他

(2) 評議員会の開催

第1回評議員会 令和6年5月16日(木) 18:30 ~ 19:20

(報告事項)

1. 福山共働センター移転新築工事に伴う資金計画等について

2. 福山共働センター移転新築 進捗状況について

3. その他

議案 1. 理事の選任について

第2回評議員会 令和6年6月20日(木) 18:30 ~ 19:50

(報告事項)

1. 令和5年度 事業報告について

2. 職員の採用状況について(2025年卒分含む)

3. その他

議案 1. 令和 5 年度 決算報告について
監事監査報告・社会福祉充実残額報告含む

第 3 回評議員会 令和 6 年 1 2 月 6 日 (金) 18:30 ~ 20:10
(報告事項)

1. 所轄庁実地指導について
2. 福山共働センター 移転新築 進捗状況について
3. 業務管理体制について
4. 理事長の職務執行状況報告

議案 1. 令和 6 年度上半期収支について
議案 2. 令和 6 年度第一次補正予算について

第 4 回評議員会 令和 7 年 3 月 2 7 日 (木) 18:30 ~ 20:00
(報告事項)

1. 福山市障がい福祉分野における ICT 導入モデル事業
補助金交付の決定について
2. 福山共働センター 新館落成について
3. マネジメントリスクプロテクション保険の継続加入について
4. その他

議案 1. 令和 6 年度 第 2 次補正予算 (案) について
議案 2. 令和 7 年度 事業計画 (案) について
議案 3. 令和 7 年度 資金収支予算 (案) について
議案 4. 定款変更について

(3) 行事等実施報告

令和 6 年	5 月 8 日	理事会開催
	5 月 1 6 日	評議員会開催
	5 月 2 8 日	監事監査
	6 月 5 日	理事会開催
	6 月 6 日	経営協総会
	6 月 2 0 日	評議員会開催・理事会開催
	7 月 6 日	理事会開催
	1 1 月 2 8 日	理事会開催
	1 2 月 6 日	評議員会開催
令和 7 年	3 月 1 3 日	経営協総会
	3 月 1 9 日	理事会開催
	3 月 2 7 日	評議員会開催

4. 施設運営活動の状況

利用者人数については、年度末の時点で法人全体の障害福祉サービス利用者

数 83 名（前年比+3 名）、児童通所支援事業登録利用者数 26 名（前年比▲3 名）であった。グループホームは年間を通じて満室。短期入所 2 室は 8 割の稼働率であった。なお職員数は、法人全体において 64 名である（前年比マイナス 3 名）。

本体事業の収支状況である事業活動資金収支差額は、61,895,275 円であり過去最高額であった。施設整備とその他の活動による収支も含めた最終的な資金収支差額は、福山共働センター新館建設により▲5,089,719 円である。上半期を終えて組んだ補正予算が▲12,891,000 円であったことより、後半も想定以上の収入増であったことがわかる。また貸借対照表より、前年度末に比べて現金預金は 460,020 円減少。資産総額は 99,550,476 円増加した。

固定資産の取得は、建物 1 棟、車両 1 台、パソコン 6 台、防犯システム関係 2 件、建物内手洗い設置などであり総額 113,808,459 円であった。
資金収支の概要は以下の通りである。

○事業活動による収支

事業活動収入	372,775,696 円		
事業活動支出	310,880,420 円	収支差	61,895,275 円

○施設整備などによる収支

施設整備等収入	50,200,000 円		
施設整備等支出	117,184,994 円	収支差	▲66,984,994 円

○その他の活動による収支

その他の活動による収入	0 円		
その他の活動による支出	0 円	収支差	0 円

当期資金収支差額合計 ▲5,089,719 円

事業毎の報告については以下のとおりである。

(1) 生活介護 久松共働センター

(ア) 運営の状況

定員 20 名（現員 25 名）

職員	管理者	1 名	サービス管理責任者	1 名
	支援員	17 名	看護師	1 名

令和 6 年度は、前年度と同じく 25 名の利用者を迎えることができた。年間を通じて 1 日あたりの平均利用人数は 23.5 名であり、前年度と大きな変動は見られず利用者一人ひとりが安定して通所することができた。今後も、利用者やご家族が安心して通える事業所づくりに努めていく。

(イ) 利用者支援

当事業所では、毎月職員会議を開催し、利用者の皆様の様子や作業・活動について共有・検討を行った。また、生活介護では 4 つのチームに分かれ各チームのケース会議を実施し、現状や今後の支援方針を確認。チームリーダーを通じて全体への情報共有を行い、日々の申し送りにより課題の原因を分析し、翌日以降の対応に活

かしている。活動の充実として、各活動には職員リーダーを配置し、レクリエーション、生活特化活動、自立課題、運動などの質の向上を目指した取り組みを継続している。また「チャレンジアップ」と題し、机ふき検定や昼食の買い物、掃除など、日常生活の中で“できること”を増やす活動を展開した。創作活動としてフルイドアートやアルコールインクアートなど、新しい技法を取り入れることにより利用者主体の個性的な作品が多数生まれた。地域連携では、8月に福山美術館で開催されたアート展「自由に十彩」にて作品を展示し、2月には「といるマルシェ」をイチセトウチで開催。会場は利用者のアートで彩られ、多くの方々に好評をいただいた。また、地域交流の一環として、久松台小学校の3年生とともに学校遊具の塗装体験を実施。さらに、企業から制作依頼を受けた絵画作品がテレビや新聞で紹介されるなど、社会とのつながりも広がっている。作業面では、ラベル貼りや梱包作業などを通じて、利用者の作業能力向上が見られた。また、サンラヴィアンの協力のもと、福山循環器病院にてお菓子を提供する「オフィーカ」を導入するなど、ドライブが仕事に繋がる新たな取り組みも始めている。作業中心チームでは、化粧箱折り、粉充填、袋詰め、ラベル貼りなど、1日を通してさまざまな作業に取り組んだ。

運動面では、ウォーキングや階段昇降、水中ウォーキングなどを通じて、体力・筋力の維持・向上を目指し、個々に合わせたプログラムを継続している。健康管理では年2回の健康診断と、看護職員による個別支援を実施。防災面では、年2回の避難訓練を行い、防災意識の向上を図っている。

今後も、利用者の皆様が安心して過ごせる環境づくりと、地域に根ざした多様な活動の継続に取り組んでいく。

(ウ) 活動の状況

別紙活動報告書の通り

(2) 就労継続支援B型 久松共働センター

(ア) 運営の状況

定員20人（現員23人）

職員	管理者	1名	サービス管理責任者	1名
	支援員数	6名	目標工賃達成指導員	1名

令和6年度の利用者数は25人で年間を通じて1日の平均利用者数は21.8名であり、前年度と比べると1.3人の増となった。平均利用者数に関しては2名の利用者が新たに加わり平均利用者数が上がった。

(イ) 利用者支援

年間を通じて、毎月「職員会議」および「支援会議」を開催し、「働くこと」や「活動の充実」を目指した取り組みを継続して行った。行事については、職員のみで決定するのではなく、利用者の皆様とともに計画段階から話し合い、意見を反映させながら形にしていった。2024年度の目標は「～工賃アップ～ お互いを理解して楽しい1年にしよう！」として目標達成に向けて、利用者同士が集中して作業に取り組む姿勢や相手を思いやる行動が増えるなど、前向きな変化が多数見られた。また、トラブルや伝えにくい思いなどは職員に報告してもらい、職員を通じてお互いの気持ちを伝え合う機会が増えることで、より深い理解へとつながった。

楽しみの提供とともに、社会参加と自立支援を目的とした「外食DAY」を新たに実施した。年に2回、セルフレジや注文・会計の経験を通じて、選択力や金銭管

理能力の向上を図った。普段のテイクアウトでは味わえない焼肉、ラーメン、寿司などのメニューも楽しむことができ、大変好評だった。

健康面：年2回の健康診断に加え、看護職員による個別健康管理を実施し、体調の維持・向上に努めた。

防災面：年2回の避難訓練を実施し、防災意識の定着を図った。

これからも、利用者の皆様一人ひとりの成長と笑顔を大切にしながら、楽しく充実した毎日を創り続けていく。

(ウ) 就労支援活動

就労支援事業収入 11,544,999円

対前年比 94% 対予算比 107%

(内訳)

・授産事業収入 10,831,628円

対前年比 93% 対予算比 107%

・バザー事業収入 713,371円

対前年比 88% 対予算比 114%

(株)こだま食品：売上約543万円(前年比112%)

優美苑(封入作業)：売上約6万円(前年比57%)

※DMのネット化による作業量減少が要因

トータルライフ(封入作業)：売上約28万円(前年比112%)

徳永製菓(生活介護と合同チーム)：売上約146万円

(前年比44%)

自動販売機(2台)管理：売上約148万円(前年比89%)

作業面全体としては増減の差が見られたが、こだま食品の作業が堅調に伸び安定した売上を維持した。自主製品『染め工房STORY』「私たちの活動を知ってもらおう」をテーマに、地域イベントへの積極的な参加を通じて認知度の向上と販路拡大に取り組んだ。

出展：イチセトウチ、天満屋、アケボノピクニック、備後マルシェなど

ワークショップ：デニムバラコサージュ作り(小学校2校)、Tシャツ制作(PTCイベント) 売上：約61万円(前年比258%)

新たな企業からの依頼も増え、染めTシャツの注文が好調に推移した。

自主製品『ふくのやまぎょうざ』は、機械導入により生産力が向上し、地域イベントへの出店やスーパーでの販売を拡大。リピーターの増加と共に、商品改良・新商品開発にも力を入れた。また材料費削減の為、キャベツ農場での直接収穫を行った。商談実績として地元バイヤーとの商談会で好評価を得ることができ、東京都内の広島県産品店での販売が決定した。利用者も販売に参加し、社会参加・金銭管理の経験を積むことが出来た。

令和6年度の平均工賃月額額は27,384円で、前年度より5,374円減少した。今後の展望は既存作業の単価見直しと、「ふくのやまぎょうざ」へのさらなる注力により工賃アップを目指し、利用者の皆様の働く喜びと達成感を大切に、引き続き地域とつながる活動を展開していくことを次年度の目標とする。

(エ) 活動の状況

別紙活動報告書の通り

- (3) 放課後等デイサービス 児童発達支援事業 サニーふれいす
運営の状況 一日定員10名(登録26名)
職員 管理者 兼 児童発達支援管理責任者 1名
保育士 2名 (常勤 2名)
児童指導員 3名 (常勤 2名 非常勤 1名)
専門職員 1名 (常勤 1名) 作業療法士

2024年4月に報酬改定があり、報酬単価・加算が大幅に見直されることになった。基本報酬は多少上がったが、一部の加算が大幅に引き下げられたことにより、1日あたりの報酬は平均して減算されることになった。また、今までの保育士、作業療法士などの資格よりも児童指導員としての経験年数(5年以上)が加算に対して必要となった。幸いなことに経験年数の長い職員が多く所属しているのでクリアできたが、事業収入と人件費の兼ね合いや法人内での異動、資格のない新人育成が今後難しくなると思われる。

児童発達支援みつばちは2名の登録があり、初めての複数人療育を行うことができた。ふたりとも大集団は難しいということだったが、二人だとお互いを意識し、いきいきと、笑顔や声もよく出ている。

放課後等デイサービスサニーふれいすは 年間を通じての一日の平均利用者数は8.01名と目標としていた定員10名(一日平均9名)に達することはむずかしかった。原因として・感染症を含む体調不良や予防のため・学校行事との兼ね合い・家族でのお出かけ等があげられる。

今年度は新一年生の登録はなかったが、他放デイの閉所や対応が難しくなった児童が年度途中で数名登録した。現存の利用者も加え個別対応が必要なこどもが増えてきており、定員まで利用者を入れられない曜日もでてきている。

プログラムに関しては、同じ活動を繰り返し行うことを目標とした。ルールのあるゲームは繰り返し行うことで、ルールや順番の理解ができるようになり、「できた」うれしい「失敗した」くやしい、次がんばるなどの感情の動きも見られた。また、おでかけ(さんぽ・公園)を多く取り入れている。夏休みは「サニー夏祭り」春休みは「サニーふれいす 春のパンまつり♪」と称し、昼食のクッキング、ゲームやショッピングを行った。

社会福祉法人が運営する放課後等デイサービスとしてこどもの受け皿になりたいと思っている。数ある児童通所支援事業の中で自分たちサニーふれいすの役割は何かをしっかりと認識し、利用者、ご家族に喜んでいただける支援を提供していく。

- (4) 特定相談支援事業・障害児相談支援事業 久松共働センター
職員 管理者 1名
相談支援専門員 2名 (専従1名 兼務1名)
件数 年度末 165件 (特定相談157件 児童相談8件)
※前年比 特定相談プラス5件 児童相談マイナス1件

職員体制は、前年と変わらず管理者1名が非常勤の相談員として兼務(44件担当)、常勤専従の相談員が1名(121件担当)の計2名で事業を実施。件数に関しては前年度より4件増えた。

相談支援事業は報酬改定によって基本単価が約15%増加。併せて必要なモニタリング期間の確保(6か月毎から3か月毎への移行)を行ったことにより、前年より221万円の収入増となった。

令和6年度の振り返りとして、グループホーム入居希望者への対応の増加があげられる。例として親が高齢で且つ入院や認知症状の悪化によって自宅における生活がむずかしくなったため入居となったケースが見られた。当法人内通所事業所では50歳代の利用者が多くみられることから、今後このような形は増えてくると思われる。入居事業の拡大によって住処の確保に努めなければならない。

研修や専門部会への参加によって他事業所の相談員との情報共有を図り、また事例検討に参加することによって個々が抱えている課題を地域全体のこととして捉えて、関係機関とどのようにつながって利用者の安定した暮らしにむすびつけるかを考えることができた。

(5) 生活介護 福山共働センター

(ア) 運営の状況

定員 10名 (現員 11名)

職員	管理者	1名	サービス管理責任者	1名
	支援員数	6名	看護師	1名 (支援員兼務)

【常勤換算】6.2名

今年度の利用者数は11名でスタートし、年間を通じての1日の平均利用者数は9.3名で前年度から0.4ポイントアップした。

2月半ばに新しい建物が完成し、継続と別棟で活動をするようになった。それに伴い、来年度は定員数を14名に増員するため申請を行い決定通知書が届いた。

今年度も福山北特別支援学校からの実習生を受入れ、2名の受入れが決まった。今後も新規利用者受け入れのため、支援学校からの実習受け入れや、相談事業所と連携をとっていく。

(イ) 利用者支援

利用者一人ひとりのニーズに沿った個別支援計画を立て、本人の思いを大切にしたい個別支援ができるように、カラオケや1日外出にでかけるなど利用者のニーズやペースに合わせ、楽しく過ごせる活動を提供するように努めた。2月末より継続と別棟で活動をするようになり、刺激が減ったためか、落ち着いて活動に参加できる方が増えた。また、定期的にケース会議やモニタリングを行い個別支援計画の進捗状況の確認、問題の早期発見や解決に取り組んだ。

年2回の健康診断を行い、健康管理を進めるとともに、看護職員による定期的な体重測定や血圧測定を行い、より一層の健康の増進を図った。その他に防災訓練では消防・避難訓練を2回、地震避難訓練と洪水避難訓練を1回ずつ行った。消防・避難訓練では、水消火器での消火訓練を行うことにより防災意識を高めるように努め、洪水訓練では新棟の2階に避難する訓練を行った。

(ウ) 活動の状況

別紙活動報告書の通り。

(6) 就労継続支援B型 福山共働センター

(ア) 運営の状況

定員 20名 (現員 23名)

職員	管理者	1名	サービス管理責任者	1名
	職業指導員	4名	生活支援員	1名

目標工賃達成職員 1名
【常勤換算】4.1名

今年度は4月に新規利用があり利用者23名でのスタートとなった。4月末に1名が他県へ引っ越したため退所されたが、7月に新規利用があったため現況はスタート時と同じ23名となった。

年間を通じての平均利用者数は19.9人で前年度は17.9人だったため2ポイント上がった。

2月中旬に新しい建物が完成し、2月末に移動。今までは母屋とプレハブに分かれていたが一つの建物で作業をすることになった。

課題であった定員数まであと数名の利用者獲得が必要と考えられるため、引き続き相談事業所と連携をとっていく。

(イ) 利用者支援

新しい建物ができ、母屋とプレハブが同じ場所で作業をすることになり、緊張や不安などで落ち着かない様子がみられたが、コミュニケーションをしっかりとることで落ち着きを取戻してきている。

土曜日は、季節に合わせた創作活動や散歩、車で希望する場所へ行くなどすることで気分転換となり、作業へのモチベーションアップに繋がっている。今年度は2グループに分かれ「八天堂」に工場見学へ行き、作業の在り方を勉強する機会を作った。毎月1回、近くのスーパー等にお弁当を買いに行くか外食に出かけている。

また、定期的にケース会議やモニタリングを行い個別支援計画の進捗状況の確認、問題の早期発見や解決に取り組んだ。

年2回の健康診断を行い、健康管理を進めるとともに、看護職員により定期的な体重測定や血圧測定を行い、より一層の健康の増進を図った他、防災訓練では消防・避難訓練を2回、地震避難訓練と洪水避難訓練を1回行った。洪水避難訓練では新棟の2階に避難する訓練を行った。

(ウ) 授産活動

平均工賃は20,131円で令和6年度目標額の17,760円を達成することができた。新しい建物に移ったためERジャパンの配管分別作業ができなくなったため、代わりに同社のインクカートリッジの仕分け作業をすることになったが、配管と同様の作業量はなく収入増には至っていない。エキヤ産業や田中細巾の作業に関しては、新しい種類の軍手やベルトが入りコンスタントに作業ができた。

ERジャパンの収入減や人数が増えたことも考え、今後も目標平均工賃を達成していくためには、新しい作業の獲得が課題になる。

(エ) 活動の状況

別紙活動報告書の通り。

(7) 共同生活援助 短期入所 宇宙(そら)

(ア) 運営の状況

定員 共同生活援助8名(現員8名)

短期入所 2名

職員 管理者 1名

サービス管理責任者 1名

生活支援員 8名

世話人 2名

利用者・職員の体制については変わりなかった。グループホーム8室は常に入居の状態です業を実施することができた。ただし本人、ご家族の希望による実家への帰省については望まれる通りに調整を行った。

- ・懸念された感染症の影響については、入居者より感染者は発生したものの、拡大防止対策によって事業縮小は避けられた。ただ、完全防備また他の利用者に感染しないよう注意を払いながらの支援は緊張の連続であった。

- ・開所して丸5年を経過したが、以前から実施している業務のチェック体制によって施設は清潔に保たれている。その中で利用者は快適に暮らし、職員は気持ちよく働くことができている。

- ・短期入所は約8割の稼働率であり、男性部屋は長期休暇中以外埋まっているが、女性が7割程度の利用にとどまっている。週末の利用者獲得が課題としてあげられる。また家族の都合によって緊急利用を申し出られることが数件あった。その際は簡易部屋において受け入れを行うことによって応えることができた。

- ・安定した形で1年間事業を実施できた結果、事業収入は前年比444万円の増加、収支差額は708万円の増加となった。

(イ) 利用者支援

- ・職員会議、支援会議を毎月開催。日々繰り返しの支援にはなるが、個々の気づきや課題に対する進捗状況を確認して統一した支援ができるように努めた。

- ・体調の維持、変化を注視し、必要な通院同行、受診により状態を把握した。ただしグループホームの職員だけでは通院体制が組めないため、行動援護事業を受給されている方はヘルパー事業所を利用している。そちらとの連絡・調整も大切な業務といえる。

個別支援計画、重度者支援計画に基づき、利用者一人ひとりの思いに寄り添った支援を行い、定期的なケース会議、モニタリング会議、個別支援計画作成会議により充実したサービスの提供を図った。また関係職員をはじめ日中活動事業所との情報共有により、双方で安心してすごせるように努めた。

他、防災面では避難訓練を2回行い、防災意識を高めるように努めた。

5. 決算書類の目録

(ア) (法人全体)	資金収支計算書	第一号第一様式
(イ) (事業区分)	資金収支内訳表	第一号第三様式
(ウ) (拠点区分)	資金収支計算書	第一号第四様式
(エ) (法人全体)	事業活動計算書	第二号第一様式
(オ) (事業区分)	事業活動内訳表	第二号第三様式
(カ) (拠点区分)	事業活動計算書	第二号第四様式
(キ) (法人全体)	貸借対照表	第三号第一様式
(ク) (事業区分)	貸借対照表内訳表	第三号第三様式
(ケ) (拠点区分)	貸借対照表	第三号第四様式
(コ) 財産目録		別紙4
(サ) 固定資産台帳		
(シ) 付属明細書一式		
(ス) 計算書類に対する注記		

以上